

# 山車祭りにおける神輿渡御の変容 佐原市本宿の祇園祭を事例にして 小笠原尚宏

Changes in the Participation of Portable Shrines in Float Festivals: The Example of the Gion Festival in Honjuku, Sawara City

はじめに

- ①佐原市本宿・祇園祭の概要
- ②神輿渡御とその変遷
- ③小規模町内の祭り運営—下仲町区の惣町年番
- むすびに代えて

## 【論文概要】

本稿は、佐原市本宿の八坂神社祇園祭を事例として、今日の山車祭りにおける神輿渡御がどのように運営され、あるいは変遷をたどってきているのかを、「八坂神社文書」を手がかりとして、探ったものである。祇園祭は、神輿一基と山車一〇台が巡行する山車祭りであるが、町内の山車はあくまで、神輿渡御の「附祭」として捉えられ、惣町による文書をはじめとして、この「附祭」がしばしば強調される。即ち本宿惣町の氏神である八坂神社の神輿は、各町の山車に優先するという考え方が、少なくとも建前の上では重視されてきた。

しかしながら、具体的な神輿渡御の変遷をみた場合、建前とは大きく異なった局面があらわれている。  
その一つとしてあげられるのが、一九六〇年代後半を境として進行する神輿渡御の簡略化であり、そこには祇園祭における神輿渡御の位置づけの変化が見え隠れする。

一方、佐原市本宿の規模町内の代表として取り上げた下仲町区では、惣町年番に際し、外部の資源を取り入れた若連を組織することによって、神輿渡御を実施するに至っているなど、祇園祭をめぐるあらたな動きも誕生している。

神輿渡御を巡る簡素化が進められる一方で、外部資源を取り入れた祭り運営が行われるなど、佐原市本宿の祇園祭は、新たな局面を迎えている。